

在宅医療だより

芳賀地域での在宅医療について



真岡中央クリニック院長
芳賀都市医師会会長

小川 松夫

はじめに

芳賀都市医師会は真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町の1市4町をエリアとする医師会です。このエリアは栃木県南東部に位置し、人口密度は県平均を下回り、高齢化率は平均では県平均と同水準ですが地域差が大きく一部の地域では既に30%を超えています。当地域の医療施設に従事する医師は人口10万対114.5人で県平均の212.9人に比べ大きく下回っています。このような特徴を持つ地域で芳賀都市医師会では在宅医療を希望する患者さんの希望を叶えるために様々な取り組みを開始しています。

今回は芳賀都市の在宅医療の現状と在宅医療推進の取り組み、更に私たちの連携型機能強化型在宅支援診療所について、最後に在宅医療を推進するために日頃考えていることをお伝えいたします。

芳賀都市の在宅医療の現状と在宅医療推進

平成28年6月現在、在宅支援診療所は8施設です。人口10万人当たり5.3で県全体の平均7.7を下回っています。在宅支援診療所とともに在宅医療を支える柱である訪問看護ステーション数は4施設です。人口10万人当たり2.7となっており県全体の4.3を下回っています。医師会の先生方にアンケート調査をしたところ殆どの先生がかかりつけの患者さんから往診の依頼があったときには往診をしているようです。

芳賀都市医師会では勇美記念財団の助成を受け平成27年から28年にかけて「地区医師会の地域包括ケアシステム構築のための在宅医療推進事業」を行ってきました。地域内の3か所で「緩和ケア診療所いっば」の萬田録平先生に「最期まで目一杯生きる」という演題で講演をしていただきましたが3か所で延べ1000人の方に聞いていただきました。私たちが想像している以上に地域の方々には在宅医療に関心をお持ちなのだと思います。

平成27年から在宅医療連携拠点整備促進事業が始まりましたが、芳賀都市医師会では平成27年から28年度に真岡市と協力して事業を展開しています。現在はいちご一会という愛称もつけて毎月講演会や症例検討会を行っています。二年目に入り多職種の方々の顔がわかり、これからの連携が円滑に行きそ

うです。平成28年から29年度に4町（益子町、茂木町、市貝町、芳賀町）と協力してもう一つ事業を開始しました。平成29年度から真岡市では在宅医療・介護連携推進事業が始まります。平成30年度からは4町でも始まります。医師会としても全面的に協力し在宅医療を推進して行く予定です。

私たちの連携型機能強化型在宅支援診療所について

芳賀地域では私たちの連携型機能強化型在宅支援診療所が唯一の機能強化型在宅支援診療所です。4つの診療所が連携しています。月に一度のカンファレンスには5名の医師と2訪問看護ステーションの訪問看護師、リハビリスタッフ、各診療所の看護師等合計25名程が集まります。毎回約70名の患者さんの検討をしています。毎回いろいろな意見が飛び交い活発な議論が行われています。楽しみは年に二回の懇親会です。普段の疲れを癒すよい機会となっております。

在宅医療を推進するために

在宅医療の推進に重要なことは地域の方々にかかりつけ医を持っていただき、通院が不可能になっても在宅生活を希望される患者さんには、かかりつけ医が在宅医療についてきちんと説明することでしょう。かかりつけ医の先生によっては自ら往診を行い更に訪問診療を行うことが可能な先生もおられるでしょう。しかし、ご自身でできない場合は適切な訪問診療を行う医師を紹介することが必要でしょう。

在宅医療を行う医師を増やすには若い医師の参入が必要です。私は学生や研修医の教育に在宅医療を取り入れるべきであると思っています。また、医師会に入会される先生にも在宅医療の重要性を理解していただく必要があります。今年度から始まった日医かかりつけ医機能研修制度は在宅医療を理解し実践するよい研修が含まれています。沢山の先生方に研修を受けていただきたいと思っています。

在宅医療に関しては様々な事業が始まっていますが、在宅生活が不可能な患者さんも今後著増します。「在宅生活以外の選択肢をどの様にしてゆくのか？」在宅医療を進める中で私たちは別の選択肢も考えて行かなければなりません。